

その「物語」、の物語。

“ペログリ”的複眼思考の味わい vol.161

a taste of Ya'ssy

田中 康夫



たなかやすお ● 56年東京生まれ、作家。'00年より長野県知事を2期務める。'07年に参議院議員に当選。'09年に衆議院議員に当選、1期務める。小説『33年後のなんとなく、クリスタル』を11月25日に河出書房新社から上梓。【公式ブログ】<http://www.nippon-dream.com/>

「適格な認識・迅速な決断と行動・明確な責任」こそが真つ当な民主主義を取り戻す

今週の逸品



上海菜飯セット 1000円

午餐セットは1000円。写真は上海風菜飯+台湾風排骨+サラダ+スープ+食後。蒸し御飯、焼き餃子、小籠包、油肉飯も同様セット。炒飯等の単品は600円〜。点心セットは計10種から3品を選び、ビール・ワイン・台湾茶の何れかを選択で1500円。台湾風チヂミ600円を始めとする一品料理も秀逸。現時点では台湾のムーブメントが「成就」し、香港のムーブメントが「挫折」した事由に関しては何れ稿を改め詳述の予定。

【点心 新葡苑】東京都港区赤坂6-19-46 L.C.O.K.ビル1F 営11:00~23:00(L022:00)、土のみ~22:00(L021:00) 日祭定休 禁煙 ペット可 <http://tenshin.shinpuen.com/>

illustration by Hajime Anzai



「時間を掛けて説明責任を果たし、住民合意を得た上で事業着手」行政機関が掲げる斯くなる意図は、少なからず欺瞞に満ちています。理念で集った人々は日々、仕事や育児や勉学とも向き合わねばならず、時間の経過は彼らや彼女らを何時しか疲弊させ、ある種の諦念を抱かせるのですから。台湾と香港の若者が主導した、現時点では「明暗」を分かたず「民主化」ムーブメントを、生体反応を喪失して久しきニッポンで眺めながら、改めて想起します。

「環境アセスメントに着手」なる見出しを知事就任前の90年代後半に新聞で見掛ける度、斯くも形骸化した手続きを経て着工へと着実に近付いていくのだ、と曰く言い難き感懐を抱いたのを。何故って、計画を推進する側が調査を業者に依頼する畢竟、「お手盛り」手続きに過ぎぬからです。「民意尊重」の「アリアバイ」としてのパブリックコメント。個別案件の民意を反映し得るとは限らぬ議会の議決。而して首長の決裁。何れも捻れた手続きを経て、それ

らは着手へと至ります。島根県境の冬期は雪深い広島県比婆郡山内北村、現在の庄原市川北町で生まれ育った亀井静香氏は建設大臣時代の1997年に計18のダム建設を中止。自由民主党政調会長時代の2000年には島根・鳥取両県に跨がる中海の干拓事業中止を含む、総額2兆8千億円に上る計224の公共事業の計画中止・工事中断を決定します。計画採択から5年を経ても未着工。工事着手から10年を経ても未完成。これらの事業は不要不急の、

「惰性」の公共事業に他ならぬと一刀両断に。独断専行・手続無視の暴挙だと僕が指摘された2001年2月の『脱ダム宣言』よりも更に半年前の英断です。「適格な認識・迅速な決断と行動・明確な責任」こそが、真つ当な民主主義を取り戻すとの彼の信念は、ダム建設計画に翻弄された郷里の苦い経験が原点。諸手を挙げて最初からダム建設に賛成した集落は寡聞にして存じ上げず。而して、その反対理由は環境破壊云々、血税投入云々の情緒的イデオロギーに非ず。敗戦まで村の助役を務めた亀ちゃんの父親も集落の人々も、故郷を守り育まんとダム建設に反対します。すると道路は改良されず、公民館も修繕されず、都会へ出た「豚児」は帰郷せず、住民は年老い、荒廃した田畑を買い取りましよとの行政・政治の「甘言」に集落の結束は切り崩されます。その間、仮令、数十年の歳月を経ても猶、「利権」誤植「利益」で集った人々は「初志貫徹」し続けるのです。ダムが無ければ洪水は防げない、と情緒的プロパガンダを60年以上に亘って喧伝し続けるも本体工事未着工の八ツ場ダム建設計画に於いても例外なく。新葡苑は台北が本店。1階に位置する「点心 新葡苑」は終日、点心が愉しめる得難き時空。東京ミッドタウン帰りに推奨します。